



「英語・ファイナンス・文化理解」の人材育成研修プログラム

世界は広い
戦う人材はいるか



日本の会社には、日本人が思う以上のポテンシャルが秘められています。
世界には、広大なマーケットとさらなる飛躍のチャンスが存在しています。

海外に進出するとき、あるいは海外展開を加速していくとき、
何より必要なものは言うまでもなく人材です。
しかし、英語さえ話せば海外ビジネスをリードする人材になれるでしょうか？
もちろん答えはNoです。
最も重要なのは、その人材が自社の技術やノウハウ、そして企業文化を理解し、
ものごとを動かす熱量を持ち合わせていることではないでしょうか。

私たち Altus Leap がお手伝いするのは、
そのような人材に海外で戦うための必携スキルを与えること。
すなわち、海外ビジネスで避けて通れない「英語」、
すべてのビジネスパーソンが基礎的な理解を持つべき「ファイナンス」、
そしてなぜか見落とされがちな「文化理解」の三つです。

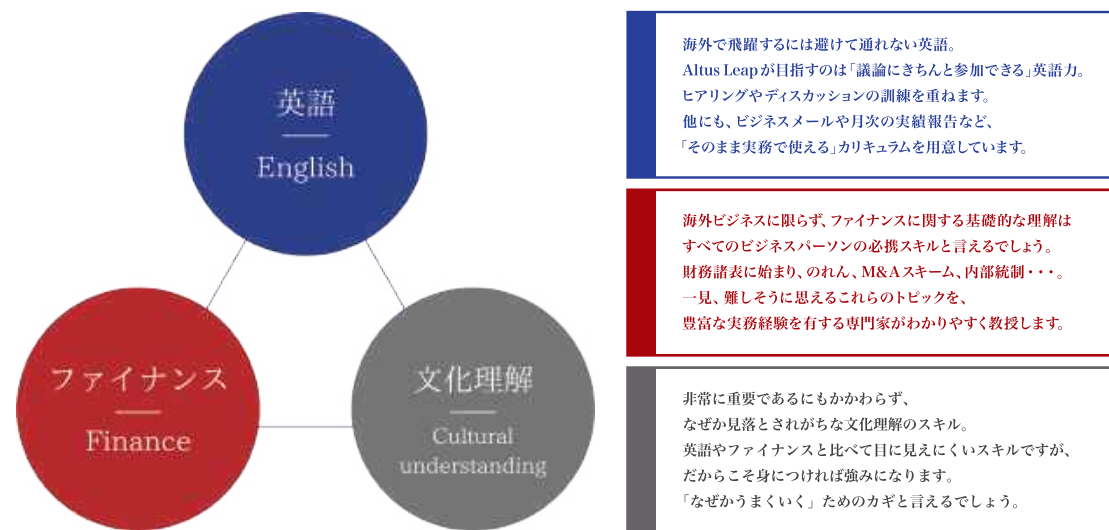
Altus Leap の講師陣は、
海外ビジネスに関する豊富な経験を有する公認会計士や弁護士などのエキスパートばかり。
そのような講師陣が知恵と経験を集約して作り上げた研修プログラムは、
ビジネス実務における有用性が高く、受講者のモチベーションを保つ工夫にあふれ、
しかも日本人が海外ビジネスでつまづきやすいポイントを広くカバーしています。

他には見られない充実した研修プログラム。
クライアントが高く(Altus) 飛躍 (Leap) するために、確かな自信をもってお届けします。

Altus Leap 代表
公認会計士 江上 徹

Altus Leap の人材育成研修とは

Altus Leap (アルタス リープ) の人材育成研修は、海外ビジネスにおける
必携スキル「英語・ファイナンス・文化理解」をパッケージ化した新しい形の研修プログラム。
研修講師は、いずれも海外ビジネスに関する豊富な経験を有する公認会計士や弁護士などのエキスパートです。
クライアントが高く(Altus) 飛躍 (Leap) するために、人材育成の面から強力なサポートを提供します。



研修効果を高める『3つの問い』

「我々は、本当に実効性のある研修プログラムを提供できているだろうか」
忘れてはならないこの命題に答えるため、Altus Leap では常に『3つの問い』を立てています。
いずれも言葉にすると当然のものばかり。それは、すべての問いに普遍性があるからなのです。

① 実際のビジネスシーンに 有効な内容か	② 受講者へのサポートは 「伴走感」を感じさせるものか	③ 受講者が日本人であることを 常に意識しているか
「その知識は本当に実務で使えるか?」「教える側の 自己満足になっていないか?」Altus Leap では 自己批評を繰り返し、常にカリキュラムや指導方法 の改善を行っています。	受講者の学習意欲・学習効果を高めるには、講師 の手厚いサポートが必要です。Altus Leap の講師は 受講者の様子をつぶさに観察し、きめ細かなコミュ ニケーションを行います。	海外ビジネスで戸惑うことが多いのは、英語では なく文化や慣習の違いです。Altus Leap では、上下 関係の重視や謙譲の美德といった日本人の特質を 意識して研修プログラムを構成しています。
		



英語・ファイナンス・文化理解

人材輩出が継続する2つのコース

海外ビジネスの継続的な発展のためには、それを担う人材も継続して育成する必要があります。
Altus Leap では、人材のポテンシャルを目覚めさせる「トーチングコース」と、
実務人材の戦力完成を目指す「インテンシブコース」の2つのコースを用意。
いずれも研修効果を最大化するため、少人数での実施です。

トーチングコース	全5回 【1クラス5名~15名】	インテンシブコース	全12回 【1クラス5名~10名】
「海外に興味はあるけど自信がない」 ポテンシャルを秘めながらも一歩を踏み出せない 人材のモチベーションに火を灯し、 海外を志向する人材の厚みを増やします。		すでに海外志向をお持ちの方、 あるいは会社として 海外経験を持たせたい方などを対象に、 密度の高い研修を提供します。	

Altus Leap の大きな特徴は、受講者と徹底的に伴走すること。
講義のない日も課題の進捗状況を見守り、提出された課題はていねいに確認・添削し、
受講者からの質問には素早く対応する。これにより、受講者のモチベーションを高く維持します。

「議論の中に数字が出てくるとついていけない」「せっかく資料を作ったのに、本番で頭が真っ白になってしまった」
Altus Leap のプログラムは、メールのやり取り、資料の作成と発表、会議の進行など、実務上のあらゆるシーンに
対応できるように構成されています。記載例はプログラムのごく一部。多彩な内容で受講者を「本物」に育て上げます。

【プログラム例：A社様 / インテンシブコース】

インテンシブコース	第1回	第5回	第11回	最終回
英語 English	ディクテーション	数字ヒアリング	ディベート (チーム戦)	ディベート (個人戦)
	シャドーイング	プレゼンテーション	ライティング ・自社の強みと弱みの整理	
	ライティング ・スケジュールの変更メール	ライティング ・本社への月次レポート	ライティング ・自社の強みと弱みの整理	
ファイナンス Finance	財務諸表の基礎	のれんとは？	M&Aのファイナンス	
文化理解 Cultural understanding	異文化に対する スタンス	意思決定と階層	会議の進め方	

採用者の声

『ビジネスの現場で本当に役に立つか』
という観点が一貫しており、
少しもブレないところに強く共感しました。

IT企業
人事担当者さま

弊社の場合、私自身が前職で Altus Leap の受講経験があるため、
今の職場に移ってから、自ら Altus Leap の採用を会社に提案した
という背景がございます。
非常に高品質なプログラムですので、自信をもって推薦できました。

サービス企業
人事担当者さま



受講者の声

「英語・ファイナンス・文化理解」と聞き、
最初はハードルが高い印象を持ったのですが、
実際に受講してみると
全くそのようなことはありませんでした。
むしろ、一般的な英会話スクールなどに
比べて圧倒的に面倒見がよかったです。

【50代 男性：トーチングコース】

課題も本当に実践的なものばかりですが、
出来ないところはきちんと講師が伴走して
フォローしてくださるので、ちょっとずつ
上達していることが実感できました。
同じ境遇の仲間と並走できる点も
良かったです。

【30代 女性：インテンシブコース】

それなりにハードな内容ですが、
だからこそ効果があります。
研修を終えて、確かに前進したと
実感が持てる講座です。

【30代 男性：インテンシブコース】

これまで社会人になってから英語の学習に
色々取り組んできましたが、
知らず知らずのうちに偏った学習に
なっていたことに気づくことができました。
受講期間中は毎日必ず課題に取り組むことを
習慣化し、提出期限前には数時間ほど
取り組むときもありました。

【40代 女性：トーチングコース】

受講までの手順

ホームページよりお問い合わせ

- ・まずはメールにてお問い合わせください。
- ・ホームページはこちら。<https://altusleap.com/>



内容のご説明

- ・オンラインあるいはご訪問にて詳しい内容をご説明いたします。

体験受講（希望される企業様のみ）

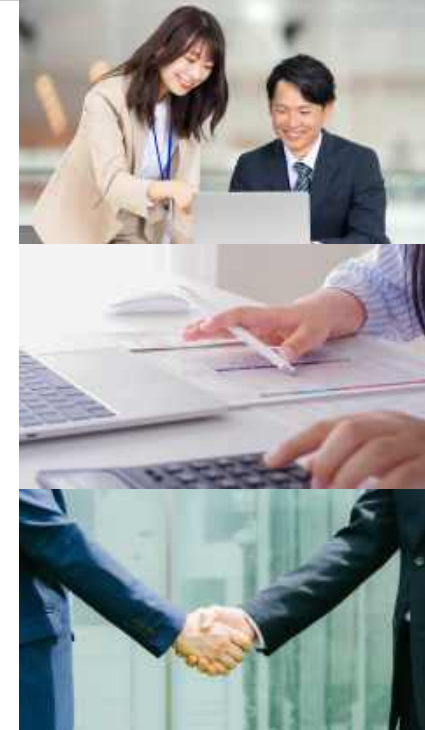
- ・無料で体験受講をお試しいただけます。
ほとんどの企業様が体験受講を希望されます。

お見積り

- ・具体的な開講スケジュール案や費用などをご提示いたします。

ご契約

- ・契約が済んだらよいよ研修開始です。



よくある質問

Q：研修の開催概要を教えてください。

A：トーチングコースは全5回、インテンシブコースは全12回です。
開催日程はクライアント企業様のスケジュールに応じて個別にご相談させていただきますが、
多くの場合、隔週で実施しています。授業は1回2時間、毎回一定量の課題も課されます。

Q：研修はどこで開催されますか？またオンライン参加は可能ですか？

A：原則としてクライアント様のオフィスでリアル開催となります。
遠隔地に勤務されている方がいらっしゃる場合にはリアル＋オンラインのハイブリッド方式も可能ですが、
オンラインのみでの開催は行っていません。
過去の経験上、高い研修効果を発揮するのはやはりリアル開催だということがわかっているからです。

Q：企業研修ではなく、一般募集はしているのですか？

A：いわゆる英会話スクールのような形での一般募集はしていません。ただし、正式な社内研修という
形でなくても、社内有志で人を集めて自主研修のような形で開催を希望される場合は対応可能です。

Q：参加要件としてTOEICの最低点数などはありますか？

A：特に参加要件は設けていませんが、それなりの課題も出されるので「本気度」は必要です。
過去にもTOEIC 500点未満だが、努力を重ねてきちんと修了された方は多くいらっしゃいます。

Q：「英語・ファイナンス・文化理解」となると、
かなりのエリート従業員しか修了できないのではないのでしょうか？

A：まったくそんなことはありません。
英語に関しては、これまでにTOEIC 500点前後の方も問題なく修了しています。
ファイナンスに関しても、すべてのビジネスパーソンが持つべき基礎知識の習得を目的としており、
過度にテクニカルな内容には立ち入りません。
そして文化理解については、必要とされるのは海外への関心だけです。